仏壇を置くスペースのない家に最適？

手元供養という新たな弔い方

仏壇は欲しいが置く場所がない、部屋のインテリアにそぐわない――そんな悩みに応える、家の中での新たな弔いのスタイルが「手元供養」。故人への思いが強く遺骨を手放せない人や、墓が遠くて墓参りにめったに行けないという人たちのニーズにもマッチしている。

[スフィア]プラチナとダイヤの輝くペンダント。一生ものなので奮発しても。55万円／❶

[リング ハート]銀とジルコニアのリング。ハート部分に遺骨が納まる。2万3000円／❶

アクセサリー タイプ

いつでも身に着けて故人を感じられる

内部に遺骨を納められるアクセサリーは、お守り代わりにもなるアイテム。納骨容器には見えない洗練されたデザインのものが多い。常に身に着けられ、故人とのつながりを強く感じられるので、悲しみを徐々に癒やす効果も期待できそうだ。

男性も身に着けやすい

[レザーブレスレット]ステンレスと牛革とを組み合わせたシックなデザインで、性別を問わず身に着けられる。2万9800円／❶

ミニ骨壺 タイプ

多彩なデザインでインテリアにもなじむ

故人の大切な名残である遺骨の一部を納めるコンパクトな骨壺。漆器、ガラス、金属など多彩な素材やデザインのものがそろい、好みや部屋のインテリアに合わせて選べる。地震などで倒れる可能性も考慮し、密閉性や堅牢性もチェックして選びたい。

手元供養のイロイロ

写真立てと一体型

[メモリアルフォトスタンド]アルミとガラス製のミニ骨壺は、写真立ての裏側部分に収納できる。1万5100円／❶

故人を供養するための〝装置〟といえば墓と仏壇だが、近年、新たな弔いの形として注目されているのが「手元供養」だ。宗教的な形式にとらわれず、自分らしい供養の形を求める人々の間で静かな人気を集めている。

手元供養とは、遺骨の一部を自宅に置いて供養するというもの。遺骨を墓以外の場に置くことにためらいもあるが、遺骨を墓に納めなくてはいけないという法律上の決まりはない。墓に一部を納め、残りを自宅に置くことも、自宅ですべて保管することも可能だ。

「遺骨はすべて墓に納めないと成仏できないなどの迷信もあるが、釈迦の骨は各地の仏舎利に納められているように、分骨は古くから続く仏教の慣習です」（メモリアルアートの大野屋の尾崎一郎さん）。

では、手元供養の品にはどんな種類があるのか。バリエーション豊富なのがミニ骨壺タイプ。遺骨の一部が納まる小さな容器で、たんすの上や棚に置き、仏壇のように日々遺骨に手を合わせて故人を供養できる。遺骨を納めていることから〝家の中の墓〟として捉える人もいる。ガラス、漆器、ステンレスなど多様な素材、デザインがあり、好みやインテリアに合わせてセレクトすればいい。

故人との絆を常に感じていたいという人には、内部に遺骨を納められるペンダントや指輪などのアクセサリータイプがお薦め。一見、遺骨が納まっているとは分からないほど洗練されたデザインで、男性がさりげなく身に着けられるものも増えている。

遺骨を納めるタイプ以外に、遺骨そのものを加工したアイテムもある。その一つが、遺骨に金属化合物の粉末を混ぜ、高温で成形したファインセラミックスをプレート状にしたもの。表面に故人の名を刻印したり、写真を焼き付けたりできる。また、遺骨から抽出した炭素を結晶化し、合成ダイヤモンドに加工した商品もある。

一方、遺骨を手元に置くのは気が進まない人もいるだろう。そんな人には、手を合わせる象徴として、インテリアになじむようデザインされた位牌を置く方法もある。

手元供養をするには、葬儀の時点でその旨を葬儀社に伝えると、火葬の際、遺骨を取り分けてもらえる。また納骨済みの遺骨は、墓地の管理者や石材店などに相談して、取り出してもらおう。

[彩音]ガラス製の骨壺をA4サイズのコンパクトな専用台（A4仏壇）に載せ、三具足とおりんを飾れば、まるで仏壇のようなスタイルに。ガラス骨壺3万5000円～、A4仏壇5万円、三具足セット5万円、おりん8000円／❷

[きわみ蒔絵さくら]日本の伝統の技を尽くした蒔絵の骨壺。石川県加賀市で作られた、防腐性・耐水性に優れた山中漆器。11万5000円／❶

[たまごデザイン骨壺]頑丈なステンレス素材で、蓋はネジ式。万が一倒れてもしっかりと中の遺骨を守る。4万円／❷

位牌 タイプ

おしゃれな位牌を供養のシンボルに

遺骨を身近に置くのには抵抗があるという人は、位牌を故人をしのぶよすがとしては。黒い漆塗りのものばかりでなく、最近は無垢材などのおしゃれな位牌も出ている。

[やさしい位牌]ブナなどの木目を生かし、無塗装で仕上げたナチュラルなデザインの位牌。戒名や俗名の刻印も可。3万8000円／❷

遺骨加工品 タイプ

遺骨を加工してプレートや宝石に

遺骨に化学的な加工を施し、別素材に作り替えて故人をしのぶ対象とする商品も。ただ遺骨を加工すれば当然、元の状態には戻せない。また、工程をすべて見ることはできないので、他人の遺骨と混じらない配慮があるかなど、業者の見極めは慎重に。

[エターナルプレート]遺骨からファインセラミックスに加工されたプレートには故人の名前、出生・死亡年月日の他、好きな言葉、写真、イラストなども彫刻できる。色は白、アイボリー、ブルーなど全5色。15万円～／❸

骨からダイヤモンド!?

[メモリアル・ダイヤモンド]遺骨から炭素を抽出して作る合成ダイヤモンド。加工はスイスで行い、所要期間は約半年。必要な遺骨は300gほど。両親の遺骨を混ぜて作ることなども可。ダイヤ製造代48万円～（ジュエリー製作代別途）／❹

「持仏」から着想 本棚に収まるミニ仏壇

本尊はA4サイズ

手頃さが手元供養の魅力だが、仏壇そのものも小型化が進む。この「仏心」は、埼玉県の仏具店・宗像が昔の「持仏」から発想を得て開発。A4に収まり本棚にも置ける。写真は厨子入り（5万円）で、FRP製の本尊だけなら2万円。

❶メモリアルアートの大野屋 ☎0120-02-8888 http://www.ohnoya.co.jp/ ❷いのりオーケストラ ☎054-260-7037 http://www.inori-orchestra.net/
❸エターナルジャパン ☎03-3846-4380 http://www.eternal-j.info/ ❹アルゴダンザ・ジャパン ☎0120-253-940 http://www.algordanza.co.jp/ 価格はすべて税別

Part 2 死後の世界を知る

手元供養のギモン

遺骨を家に置いていい？

分骨した遺骨を自宅に置くのに、特別な手続きは不要。ただ、後に、その骨を墓に納めるには、誰の骨かを証明する「分骨証明書」が必要となる。将来、納骨する可能性もあるなら、あらかじめ分骨証明書を取っておくと安心。分骨証明書は火葬場か、墓地の管理者や寺院などで発行してもらおう。

仏壇代わりになる？

仏壇は本来、宗派の本尊を祀るためのもの。一方、手元供養は仏教的な儀式とは関係なく、あくまで故人をしのぶためのものなので、ミニ骨壺や位牌を置くスペースを設けても、仏壇代わりにはならない。ただし、仏壇を故人をしのぶ象徴と捉える人には、手元供養も仏壇と同じ役割を果たすともいえる。

宗像 ☎0120-067-020 http://munakata-web.co.jp/ 価格は税別

文／頼智優子 写真／多田誠一郎（p71のミニ仏壇）